

編集後記

年末の総選挙の結果、3年3か月の民主党政権が終わりを告げ、自公政権の復活となりました。政権後半に離党者が続々と出る光景を見るにつけ、選挙互助会的な党の限界を露呈したように見えました。リベラルな勢力による政権交代と期待した民主党政権は最悪の形で終わり、旧来の自公、さらに維新と、新自由主義と自助、はては憲法改正を標ぼうする勢力が絶対多数を占めることになりました。公共サービスの充実と労働を中心にした福祉社会の実現ははるか先に行ってしまったようです。

今号は10号という区切りになりますが、千葉県自治研集会での記念講演会から、困難な中で財政再建に取り組む夕張市長の講演録を掲載しました。法政大学で宮崎ゼミに学び、その知識と経験を生かして地方自治体の運営を実践する鈴木市長のお話は地方自治に関わる人間にとって示唆にとんでいました。後半の宮崎教授との対談も元の師弟関係を越えて、地方自治の実践者と研究者という立場で、非常に分かりやすく進んでいきました。

巻頭言は当センターの副理事長の佐藤さんが昨年、市町村共済連合会の参与に就任したことも踏まえて年金の現状について投稿していただきました。当センター理事の滝本さんから東電労働者の立場から原発事故後の職場の状況をレポートしていただきました。井下田先生、宮崎先生の連載記事は、ますます充実して、今後も続いていきます。

事務局長 高橋 秀雄

次回講演会のお知らせ

「安倍政権の新年度予算と自治体の財政への影響」(仮題)

講師 要請中

日時 2013年6月15日(土) 14時 定期総会
15時 記念講演会

場所 千葉県教育会館本館 203号室